043098

フルバックマネージャ
FMS-02W

ユーザーズガイド
Windows 95 **版**
Ver. 1.2

サンケン電気　株式会社
アルファテック 株式会社

ユーザーズ ガイド

FULLBACK MANAGER
Version 1.2
Windows 95 版

サンケン電気　株式会社
アルファテック 株式会社

概要

フルバックマネージャはWindows 95システム上で動作する無停電電源装置（以下、UPS）用監視プログラムです。商用電源異常時のシステム保護と電源状態の監視、Windows 95 システムの自動運転機能を提供します

主な特長

●オートシャットダウン機能

停電時にシステムを自動的にシャットダウンできます。シャットダウンは、一定時間以上の停電またはバッテリ電圧の低下によって行います。シャットダウン後にUPSを停止させることも可能です。

●スケジュール機能

UPSおよびシステムのスケジュール運転ができます。スケジュールは月間、週間または単一で設定でき、UPSの起動と停止、システムのシャットダウンができます。

●ステータス・ディスプレイ機能

電源状態を常に監視できます。商用電圧、出力電圧、バッテリ電圧、商用周波数、装置内温度、負荷率などがWindows上に表示されます。

●ヒストリ管理機能

停電などのイベント発生時、および一定時間ごとの時刻、電圧、周波数、温度、負荷率などのデータはログファイルに記録されます。

●ユーザコマンド実行機能

停電発生時やオートシャットダウン処理前など、特定のタイミングでユーザが作成したシェルプログラムを実行できます。

パッケージの内容について

本製品には、次のものが入っています。

- ユーザーズガイド（本書）
- インストールディスク（２枚）
- インタフェースケーブル
- 問合せ票
- ソフトウェア使用許諾契約書（メディア用封筒）
- ユーザ登録書

万一内容に不備がある場合は、インストールの前に問い合わせ先にご連絡ください。問い合わせ先は「はじめに」を参照してください。

ご注意

1. 本書に記載されたソフトウェアは、ソフトウェア使用許諾契約の下で供給されます。
2. 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
3. この製品および本書を使用したことによってシステムや機器に万一トラブルや故障が発生しても、弊社は原因の如何にかかわらず一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
4. この製品の仕様および本書に記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
5. 製品の内容については万全を期していますが、ご不審の点や誤り、本書の記載漏れなどお気づきの点がありましたら、弊社までご連絡ください。

商標について

- Microsoft Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

保証期限

本商品に付属のケーブル等のハードウェアの保証期限は 6 ヶ月です。

はじめに

このたびは、サンケン電気小型無停電電源装置用ソフトウェア「フルバックマネージャ」をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

このユーザーズガイドは、フルバックマネージャのインストールから基本的な操作方法までを詳しく説明しています。ご使用の前によくお読みいただき、フルバックマネージャを正しくお使いください。

なお、このユーザーズガイドは大切に保管していただき、ご不明な点が生じたときにもご活用ください。

製品についてのご連絡／問い合わせ

（販売元）
サンケン電気株式会社
東京都豊島区西池袋 1-11-1　〒171-0021
メトロポリタンプラザビル
TEL　03-3986-6157　FAX　03-3986-2650

（開発元）
アルファテック株式会社
大阪市淀川区西中島 4-5-18　〒532-0011
新大阪エイトビル 8F
TEL　06-6300-0315　FAX　06-6300-0851
E-mail：upssoft@alfatech.co.jp
URL：www.alfatech.co.jp/network/

安全にご使用いただくために

このユーザーズガイドには、お使いになる方やその他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しく使っていただくために、重要な内容を記載しています。
次の内容をよく理解してから本文を読み、記載事項を守ってください。

- **記号・絵表示**

記号

危険	人が死亡又は重傷を負う恐れがある内容を示しています。
注意	けがをしたり、財産に損害を受ける恐れのある内容を示しています。

絵表示

⃠	してはいけないことを表しています。
❗	しなければならないことを表しています。

- **用途の制限**

人の生命に関わる装置等には、絶対に使用しないでください。

人の安全に関わる、または公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置などについては、システムの多重化等の十分な措置を講じてください。

- **取り扱い上の注意**

注意	UPS は、付属の取扱説明書の指示通りに正しくご使用ください。	❗
注意	UPS とコンピュータとの接続には必ず専用ケーブルをお使いください。	❗
注意	付属ケーブルの分解や改造はしないでください。	⃠
注意	電源プラグを抜き差しする時は、電源プラグを持って行ってください。	❗
注意	UPS の電源スイッチを切る時は、前もってコンピュータを停止させてから行ってください。	❗
注意	UPS の警報ブザーが鳴る､故障ランプが点滅するなどの異常が生じたら､UPS の取扱説明書の指示にしたがって処置してください。	❗
注意	装置に損傷を与える恐れがありますので、インタフェースケーブルの着脱は必ずコンピュータと UPS の電源を切って行ってください。	❗
危険	ぬれた手で操作しないでください。	⃠
危険	UPS から煙が出る、変なにおいがするなどの異常が生じたら、ただちに UPS の取扱説明書の指示にしたがって処置してください。	❗
危険	UPS をぐらついた台の上や不安定な場所に置かないでください。	⃠

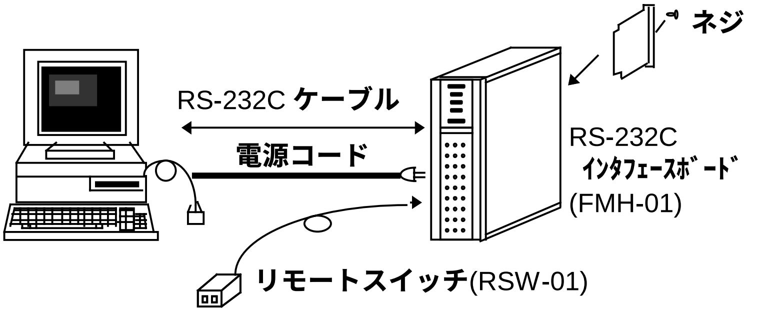
CONTENTS
目次

1 インストール

インストールの手順を以下に説明します。

UPS との接続

● RS-232C インタフェースボードを使用する場合



操作手順

1. UPS 裏面のオプションカードスロットに、「RS-232C インタフェースボード」（FMH-01）を確実に挿入し、ネジで固定します。
2. RS-232C インタフェースボードのインタフェースコネクタ（RS-232C）とコンピュータの RS-232C コネクタ（COM ポート）を付属の RS-232C ケーブルで接続します。
3. RS-232C インタフェースボードのリモートコネクタ（REMOTE）にリモートスイッチ（RSW-01）のケーブルを接続します。リモートスイッチは、コンピュータの近くの操作しやすい場所に配置します。
4. コンピュータの電源コードを、UPS の裏面出力コンセントに接続します。

⚠ 注意　**装置に損傷を与える恐れがありますので、インタフェースケーブルの着脱は、必ずコンピュータと UPS の電源を切って行ってください。**

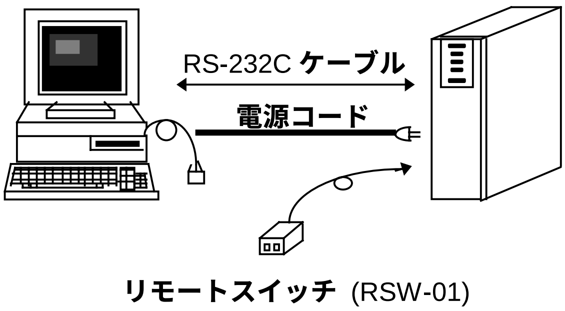
⚠ 注意　**UPS は付属の取扱説明書の指示通り正しくご使用ください。**

⚠ 注意　**UPS とコンピュータとの接続には、必ず専用ケーブルをお使いください。**

⚠ 注意　**付属ケーブルの分解や改造はしないでください。**

◇ 危険　**UPS をぐらついた台の上や不安定な場所に置かないでください。**

● RS-232C **コネクタを標準装備した** UPS **の場合**



操作手順

1. UPS 裏面のコミュニケーションコネクタ（RS-232C）とコンピュータの RS-232C コネクタ（COM ポート）を、付属の RS-232C ケーブルで接続します。
2. UPS の裏面のリモートコネクタ（REMOTE）にリモートスイッチ（RSW-01）のケーブルを接続します。リモートスイッチは、コンピュータの近くの操作しやすい場所に配置します。
3. コンピュータの電源コードを、UPS の裏面出力コンセントに接続します。

危険

ぬれた手で操作しないでください。

セットアップ

操作手順

1. UPS の前面スイッチを入れます。次にコンピュータの電源を投入し、Windows 95 を起動、ログインします。
2. 「Setup Disk」をフロッピーディスクドライブに挿入します。
3. Windows 95 のスタートボタンをクリックし、［ファイル名を指定して実行］コマンドを選択します。
4. ［コマンドライン］ボックスにセットアップディスクが入っているドライブ名を入力し、続けて:¥SETUP と入力します。
   例 A:¥SETUP
5. ［OK］ボタンを選択すると、セットアッププログラムが起動します。
6. インストール先のドライブ名とディレクトリ名を入力します。
7. ［OK］ボタンを選択すると、インストールが開始されます。
8. セットアッププログラムが終了すると、デフォルトの設定情報が登録されます。

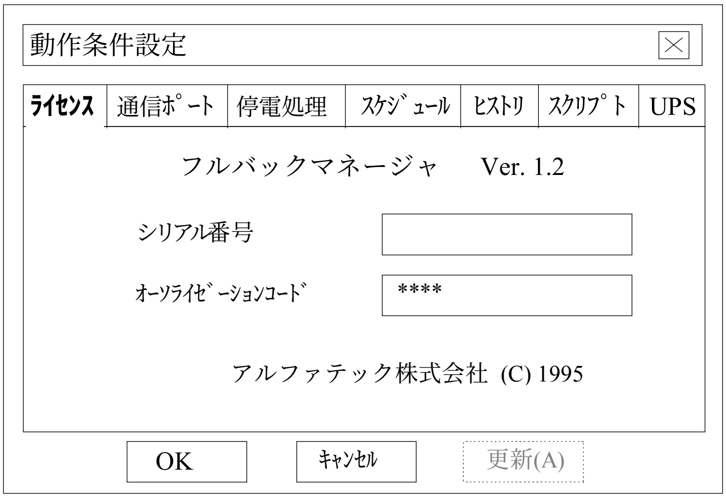
ライセンスと通信ポートの設定

セットアップが終了したら、本ソフトを使用する前に、ライセンス・通信ポートの設定をします。

操作手順

1. 本ソフトのインストール直後は、フルバックマネージャのグループアイコンが表示されていますので、［動作条件設定］アイコンをダブルクリックします。
2. グループアイコンが表示されていない場合は、［スタート］ボタンをクリックし、［プログラム］→［フルバックマネージャ］→［動作条件設定］と順に選択し、動作条件設定プログラムを起動します。
3. ライセンスのタブをクリックします。
   インストール直後は「ライセンス」ページのシリアル番号とオーソライゼーションコードはともに空白となっています。ここに、シリアル番号とオーソライゼーションコードを入力します。

シリアル番号とオーソライゼーションコードは製品に同封の「問合せ票」に記載されています。
ゼロ＝Ø またはΦ
オー＝Õ またはO



4. ［通信ポート］のタブをクリックします。「通信ポート」の設定は、インストール直後は

   デバイス　COM1
   速度　2400
   パリティ　**なし**

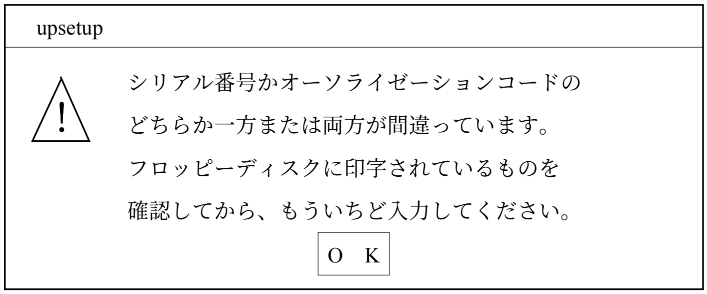
   になっています。UPS で接続したポートが COM1 でないときは、COM1 の部分をそのポート（COM2 など）に変更します。

注意

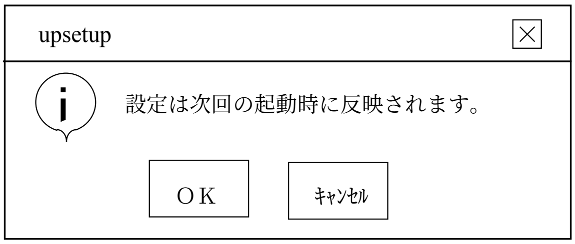
速度、パリティに関しては変更できません。

5.　［OK］ボタンをクリックして設定を終了します。

6.　オーソライゼーションコードが不正の場合は、ここで次のようなエラーメッセージを表示します。
正しいオーソライゼーションコードを設定しなおしてください。



7.　正しいシリアル番号とオーソライゼーションコードが入力されていると［ＯＫ］ボタンのクリック後、次のようなメッセージボックスが表示されます。



［OK］をクリックします。

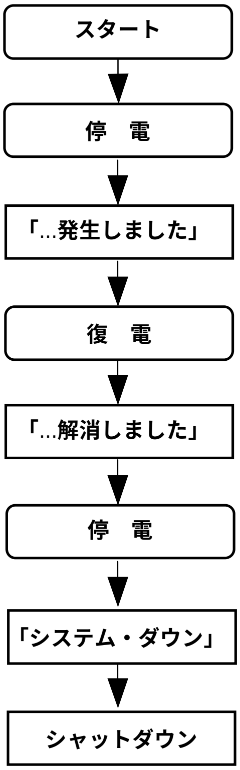
8.　**ライセンス および 通信ポートの設定を有効にするため、コンピュータを再起動します。**

このページは空白です

2

動作確認

操作手順

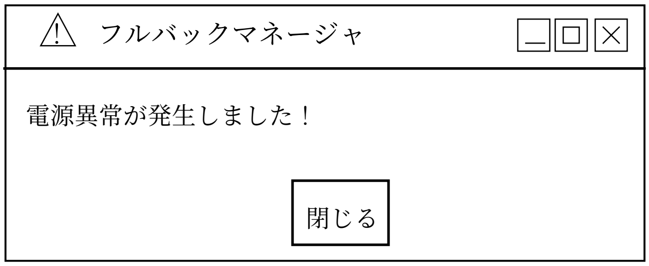


インストールが終了したら、以下の手順で本ソフトが正常に動作しているかを確認します。以下 本ソフトの動作機能をサービスと呼びます。

停電動作のチェック

停電、復電を行ってサービスが正常に動作しているか確認します。

1. UPS の電源コンセントを抜いて停電状態をつくります。
   画面に次のメッセージが交互に表示されることを確認します。
   「電源異常が発生しました！」
   「すみやかに対処してください」



1. 「閉じる」をクリックしてメッセージを消します。
2. UPS のコンセントをさして、復電状態にします。
3. 次のメッセージが表示されることを確認します。
   「復電しました」

4. もう一度 UPS のコンセントを抜き、150 秒以上（停電確認時間）そのままの状態を保ちます。
5. 150 秒以上（停電確認時間）経過すると次のメッセージが交互に表示されることを確認します。
   「電源回復の見込がありません」
   「システム・ダウン」

6. メッセージの表示後、約 30 秒（シャットダウン遅延時間）が経過するとシャットダウン処理が行われ、Windows 95 がシャットダウンすることを確認します。
7. UPS のコンセントをさして、復電します。
   UPS が電源供給を開始したことを確認します。

危険

UPS から煙が出る、変な匂いがするなどの異常が生じたら、ただちに UPS の取扱説明書の指示にしたがって処置してください。

注意

電源プラグの着脱は、プラグを持って行ってください。

注意

UPS の電源スイッチを切る時は、前もってコンピュータを停止させてから行ってください。

注意

UPS の警報ブザーが鳴る、故障ランプが点滅するなどの異常が生じたら、UPS の取扱説明書の指示にしたがって処置してください。

3

基本動作

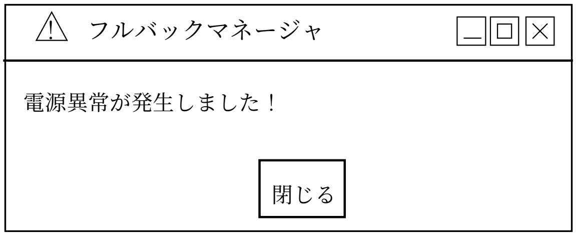
本サービスによって、停電時のオートシャットダウンとスケジュール運転が可能になります。

オートシャットダウン

●停電時

停電時は、Windows 95 画面上にメッセージボックスで
「電源異常が発生しました！」
「すみやかに対処してください」

の警告を交互に表示します。この表示は［閉じる］をクリックするまで継続します。



停電開始から、設定した“ 停電確認時間 ”が経過、またはバッテリ低電圧の状態になると
「電源回復の見込みがありません」
「システム・ダウン」

の警告を交互に表示します。上記表示後、「設定した“ シャットダウン遅延時間 ”が経過」、または「バッテリバックアップが間もなく終了」または「バッテリ放電終了」の状態になると、設定したスクリプトを実行してシステムを自動シャットダウンします。
“ UPS 自動停止 ”が“ 有効 ”になっていると、指定時間後に UPS も停止します。この後、復電すると UPS は自動的にコンピュータに電源供給を開始します。

●復電時

停電後、“ 停電確認時間 ”までに復電した場合は、Windows 95 画面上にメッセージボックスで
「復電しました」

の文字を表示します。この表示は［閉じる］をクリックすれば消えます。

●その他の異常時

UPS にその他の異常が発生した場合にも、停電時と同じように警報表示します。ただし、停電とバッテリ電圧低下以外はシャットダウン処理にはつながりません。
表示されるメッセージにには次のようなものがあります。

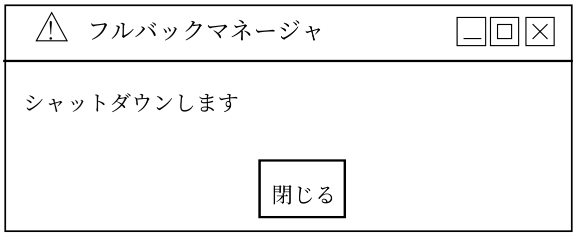
- UPS **アラーム！（出力過負荷）負荷を確認してください。**
- **バイパス給電中です。**
- UPS **故障！（直流過電圧）**
- UPS **故障！（直流不足電圧）**
- UPS **アラーム！（バッテリ電圧低下）**
- UPS **故障！（出力過電圧）**
- UPS **故障！（出力不足電圧）**
- UPS **故障！（オーバーヒート）**
- UPS **故障！取り扱い説明書に従い対処してください。**
- UPS **メインバッテリが交換時期です。早めに交換してください。**
- UPS **カレンダ用電池が交換時期です。早めに交換してください。**
- UPS **異常：ステータス＝n**
  n＝ステータス番号は UPS **の資料を参照してください。**

スケジュール運転

●スケジュール終了時

指定した終了時刻がくると、Windows 95 の画面に
「シャットダウンします」
「セッションを終了してください」

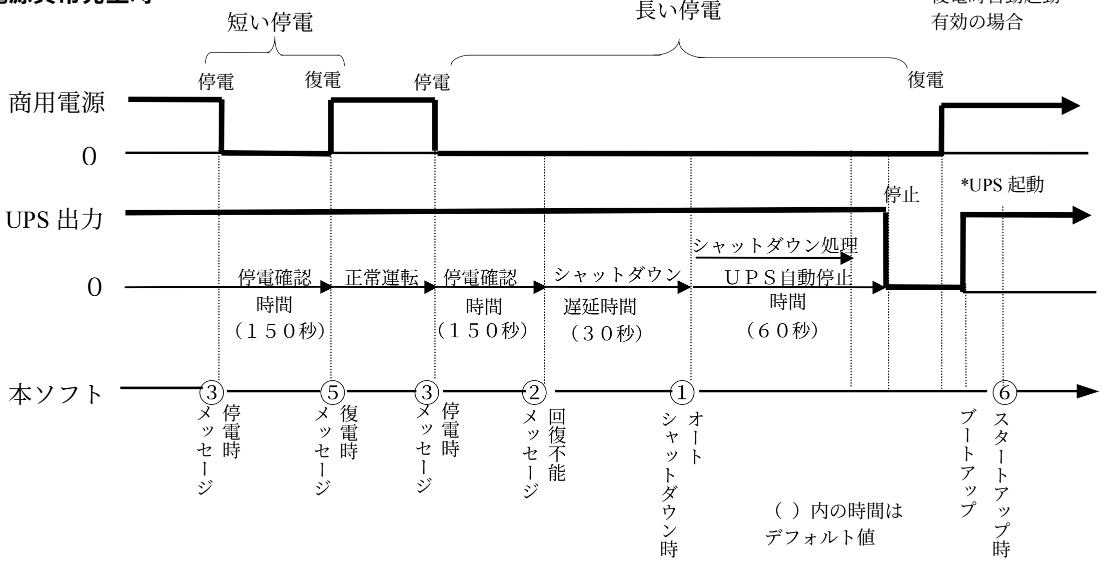
の警報が交互に表示されます。



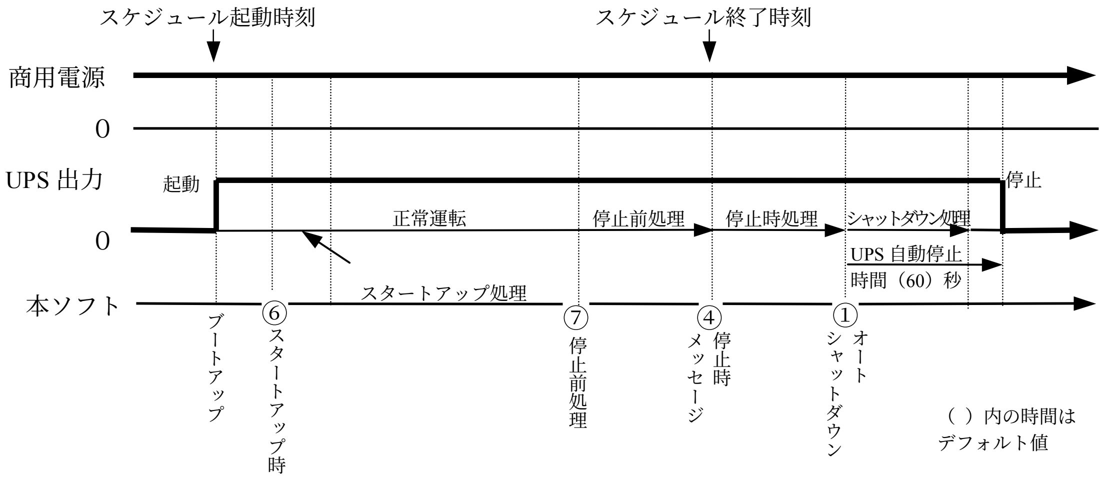
上記表示後、設定した“ シャットダウン遅延時間 ”が経過すると、設定したスクリプトを実行してシステムを自動シャットダウンします。

● 本ソフトの動作フローチャート

電源異常発生時



スケジュール運転時



スクリプト実行レベル　：⑦　スケジュール運転での停止前処理
：⑥　スタートアップ時
：⑤　復電時
：④　スケジュール運転での停止時
：③　停電発生時
：②　回復不能と見なされたとき
：①　オートシャットダウン時

4

動作条件の設定

「フルバックマネージャ」グループにある「動作条件設定」をクリックすると、動作条件設定プログラムが起動します。
設定する項目は、関連のあるものごとに、いくつかのページに分けられています。

通信ポートのページ

UPS と通信するシリアルポート名を設定します。
デバイスのみ COM1，COM2，COM3，...と変更できます。
速度、パリティについては変更できません。

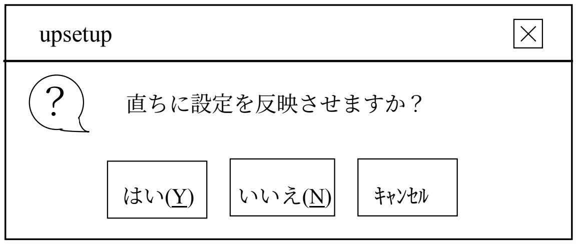


注意

通信ポートの変更を有効にするためには、コンピュータを再起動する必要があります。

MEMO

各ページの共通のオペレーションを説明いたします。
各タブをクリックし、目的のページを開きます。次に 各設定項目を変更します。この画面上で［キャンセル］をクリックすると、変更が無効になります。［ＯＫ］をクリックすると、次のようなメッセージボックスが表示されます。



このメッセージボックスで［はい(Y)］をクリックすると、変更された項目が 直ちに サービスに対して有効になります。
［いいえ(N)］をクリックした場合、次の起動後、変更項目が有効になります。
［キャンセル］をクリックした場合、変更は無効になります。

注意

通信ポートの設定変更だけは、［はい(Y)］をクリックしても、直ちにサービスに対して反映されません。
通信ポートの設定変更を有効にするためには、コンピュータの再起動が必要です。

注意

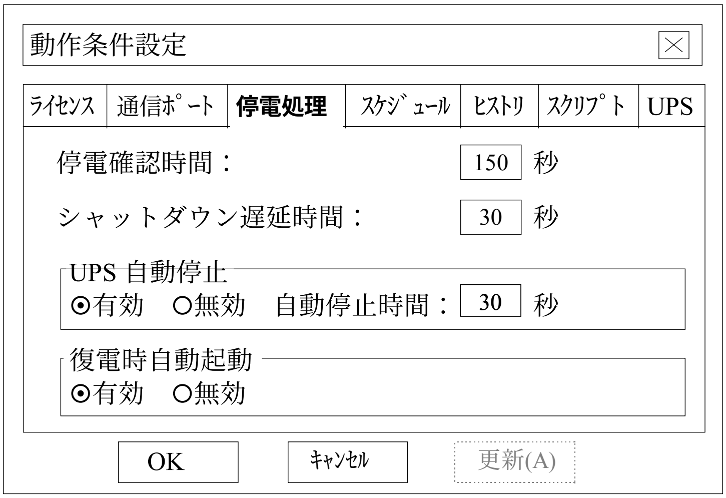
UPS のページの各項目は変更できません。

注意

各ページの［更新］ボタンは使用できません。

停電処理のページ

停電が発生したときの各種の時間を設定します。



停電確認時間

停電が発生してからシャットダウン処理を実行するまでの時間を指定します。

この間に電源が回復すれば、シャットダウンは行われません。デフォルトは 150 秒です。

シャットダウン遅延時間

シャットダウン処理に入ってから、実際にシャットダウンを行うまでの待機時間を指定します。この間に電源が回復してもシャットダウンは止まりません。デフォルトは 60 秒です。

UPS **自動停止**

「有効」に設定しておくと、シャットダウン処理終了後に UPS を停止させます。自動停止時間は、60〜255 秒の範囲で指定できます。

シャットダウン処理にかかる秒数以上の値を指定します。

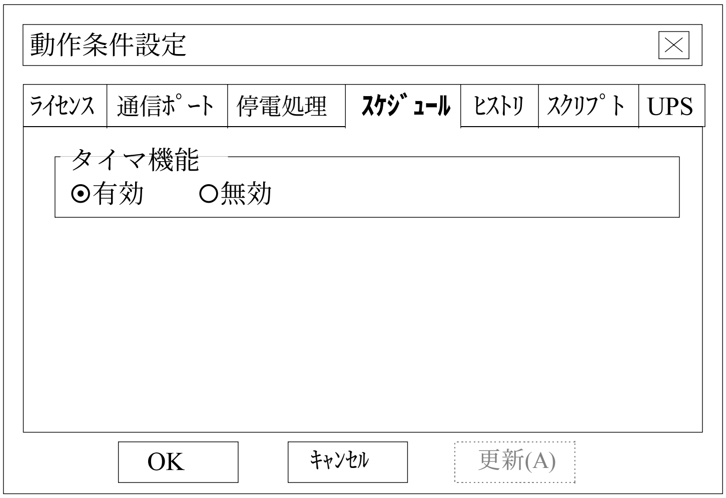
UPS 自動停止を「無効」にする時は、タイマ機能も「無効」にする必要があります。

復電時自動起動

「有効」に設定しておくと、復電時に UPS が自動的に立ち上がります。

スケジュールのページ

タイマ機能を設定します。



注意

スケジュール機能を用いるときは、「タイマ機能」を「有効」にしておいてください。「無効」にすると、スケジュール機能は働きません。

ヒストリのページ

ヒストリ機能を０設定します。



ログの記録：「有効」にすると UPS の状態をファイルに記録します。

ファイル名：記録するファイル名が表示されます。変更はできません。

記録期間：ログファイルの記録期間を設定します。

UPS **監視時間間隔**：UPS の状態を監視する時間間隔を設定します。デフォルトは 900 秒です。（有効設定：約 10 秒以上）

MEMO

ログファイル容量

ログは１データにつき 42 バイト消費します。デフォルト設定（900 秒間隔、１ヶ月記録）でのログファイル容量は、130K～150K バイト程度になります。（イベント発生数により増減します。）

スクリプトのページ

スクリプト実行機能を設定します。

実行レベル：設定するスクリプトを選択します。
スクリプト起動：スクリプトを起動するかを指定します。
コマンドライン：起動するバッチファイルを指定します。



スクリプトの実行

本ソフトは以下の各段階ごとに、起動するスクリプト（バッチファイル）を指定することができます。

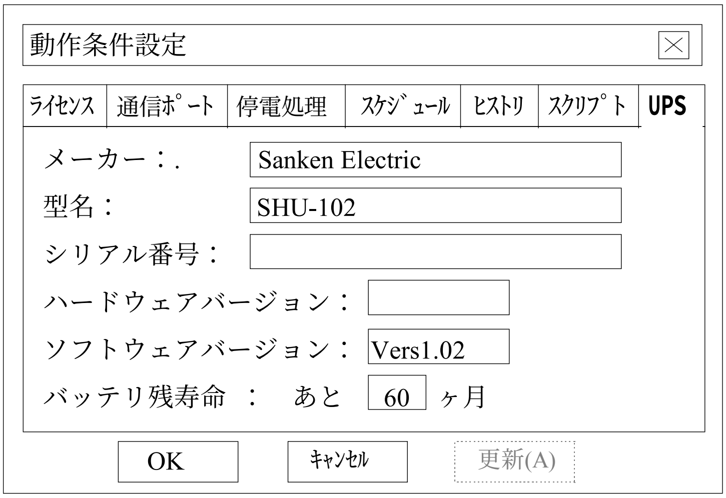
- **スケジュール運転での停止前処理**
- **スタートアップ時**
- **復電時**
- **スケジュール運転での停止時**
- **停電発生時**
- **回復不能とみなされた時**
- **オートシャットダウン時**

1. 「実行レベル」を選択します。
2. その段階でスクリプトを起動するかを、［有効］［無効］ボタンで指定します。
3. 「有効」と指定したときは、「コマンドライン」に起動したいバッチファイル名を入力します。「無効」と指定したときは、その段階ではバッチファイルは起動されません。
4. 実行レベルが「スケジュール運転での停止前処理」のときは、バッチファイル名のほかに「起動タイミング」もあわせて指定します。

スケジュール終了前処理時間は、（UPS 監視時間間隔/2）程度の誤差が生じます。

UPS のページ

「動作条件設定」のアイコンをダブルクリックし、「UPS」のタブをクリックすると UPS 情報の確認ができます。



このページは空白です。

5

スケジュール運転

コンピュータのシャットダウンと UPS の起動・停止はスケジュール運転できます。また、スクリプトと組み合わせることでシステムの自動運転が可能です。

スケジュールは、以下の単位で設定できます。

月間：月単位で行う処理に使用します。
週間：毎週行う処理に使用します。
単一：今回の終了と次回の起動処理に使用します。

スケジュール設定のルール

スケジュールの優先順位は以下の通りで月間、単一スケジュールの初期値は週間スケジュールになります。

単一＞月間＞週間

設定は、必ず週間スケジュールを月間や単一の前に設定します。
週間スケジュールで設定された内容は、週単位で繰り返されます。
月間スケジュールで設定された内容は、年間単位で繰り返されます。
月間スケジュール設定をご利用の方は、1ヶ月もしくは、数ヶ月おきにスケジュール設定内容を確認してください。

正確なスケジュール運転をするために ＜UPS 時計の校正＞

UPS は、スケジュール起動のための時計を持っています。この時計がくるっていると正確な立ち上げができません。

- 通常のスケジュール運転中は、UPS 時計のズレ補正は必要ありません。
- コンピュータの時刻を変更した場合は、Windows95 を再起動して UPS 時計をコンピュータの時刻に合わせておきます。

スケジュールの例外処理

スケジュール運転中に、スケジュールと関係なくシステムを起動または停止したい場合の処置を説明します。

●スケジュール停止中の起動

リモートスイッチの［ON］ボタンを押します。UPS からの給電が開始され、システムが起動します。

サーバ起動後、スケジュール設定でスケジュール設定／単一スケジュールを使用し、スケジュール設定を変更します。［月間スケジュール］→［設定リスト］などのスケジュールを確認します。

注意

スケジュールを変更しない場合は、起動後 15 分経過すると再度シャットダウンします。

注意

スケジュール設定後、入力した時刻と異なるスケジュール時刻が［スケジュール設定］画面（今回の終了予定時刻 および 今回の起動予定時刻）上に表示される場合は次のことを確認してください。

- Windows 95 **のコントロールパネルを開き、［日付と時刻］アイコンをダブルクリックして、タイムゾーンの確認を行ってください。日本国内の使用を前提とすれば、**GMT+09:00 **となっています。**
- AUTOEXEC.BAT **内の環境変数を確認してください。**
  例えば、日本国内の使用を前提とすれば、SET TZ=JST-9 **となっていることを確認してください。**

入力した時刻が正しく表示されるためには、上記のタイムゾーンと環境変数とが一致していることが必要です。異なっている場合は どちらかに合わせて修正するか、AUTOEXEC.BAT **内の環境変数** SET TZ=XXXXX **の行を削除してください。**

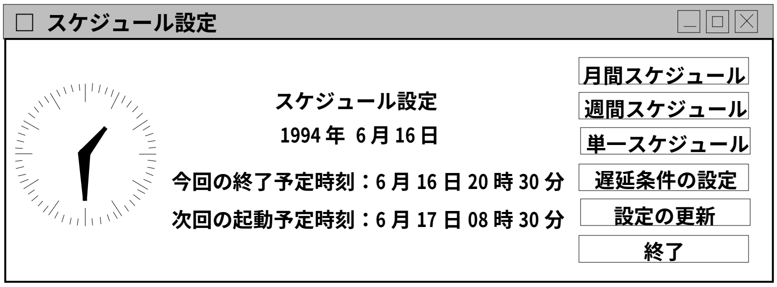
スケジュールの設定

●スケジュール設定プログラムの起動

操作手順

1. スケジュールを設定する場合は、「スケジュール設定」アイコンをダブルクリックします。

［スケジュール設定］画面が表示されます。



月間スケジュールボタン：［月間スケジュール］画面を表示します。
週間スケジュールボタン：［週間スケジュール］画面を表示します。
単一スケジュールボタン：［単一スケジュール］画面を表示します。
遅延条件の設定ボタン：［遅延条件の設定］画面を表示します。
設定の更新ボタン：設定したスケジュールを更新します。月間、週間スケジュールでは、設定したスケジュールはコンピュータの再起動後に有効になりますが、このボタンをクリックすると直ちに有効になります。
終了ボタン：スケジュールの設定を終了します。

注意

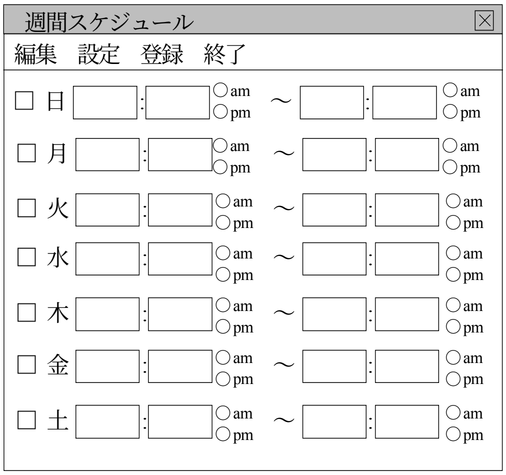
動作条件設定のスケジュールタイマ機能を無効としている場合、「スケジュール設定」画面の予定時刻に０が表示され、「設定の更新」ができなくなります。（月間、週間のスケジュール設定は可能です。）また月間、週間のスケジュール設定がされていない場合も予定時刻に０が表示されます。

●週間スケジュールの設定

週間スケジュールには、毎週行う処理を設定します。

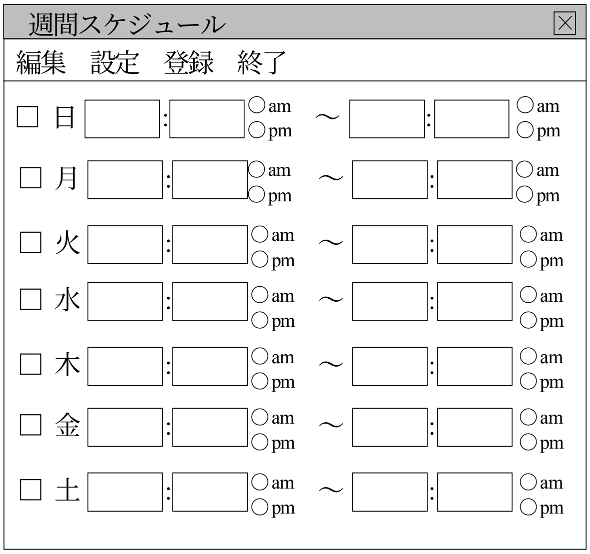
操作手順

1. ［スケジュール設定］画面で、［週間スケジュール］ボタンをクリックします。
   ［週間スケジュール］画面が表示されます。



2. 設定したい［時刻］フィールドをクリックします。
   ［時刻］フィールドの左側のチェックボックスにチェックが入ります。<Shift>キーを使用すると、複数の［時刻］フィールドが選択できます。
3. 起動（左側）および終了（右側）の時刻を入力します。
4. ［登録］ボタンをクリックします。
5. ［終了］ボタンをクリックします。
   週間スケジュールの設定を終了します。

● 週間スケジュール画面



編集メニュー

クリア：選択中の［時刻］フィールドをクリアします。

コピー：選択中の［時刻］フィールドの値をコピーします。複数選択している場合は、最も上にあるフィールドの値をコピーします。

ペースト：選択中の［時刻］フィールドにペーストします。

全てを選択：全曜日を選択します。

設定メニュー

開始曜日：カレンダの開始曜日を設定します。「日曜日」と「月曜日」が選択できます。

時計選択：時刻の表示方法を選択します。「12 時間時計」と「24 時間時計」が選択できます。

登録ボタン：設定した週間スケジュールを登録します。

終了ボタン：週間スケジュールの設定を終了します。

注意

現在時刻から間近（数分後）の終了時刻を設定した場合、最大で UPS 監視時間間隔（デフォルト値 15 分）程度終了時刻が延びることがあります。

●月間スケジュールの設定

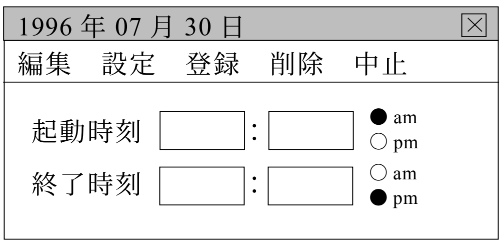
月間スケジュールには、日付を指定して行う処理を設定します。

操作手順

1. ［スケジュール設定］画面で、［月間スケジュール］ボタンをクリックします。
   ［月間スケジュール］画面が表示されます。



2. 前月、翌月のボタンを使用して、スケジュール設定したい月を選択します。
3. 設定したい［日付］ボタンをクリックします。
   ［日付スケジュール設定］画面が表示されます。



日付の表記方法は異なることがあります。

4. ［起動時刻］および［終了時刻］を入力して、［登録］ボタンをクリックします。
5. 必要なだけ、操作 2.〜4.を繰り返します。
6. ［リスト］ボタンをクリックします。
   ［設定リスト］画面が表示され、その月に設定されているスケジュールが一覧表示されます。



7. 設定した内容を確認して、ウィンドウを閉じます。
8. ［月間スケジュール］画面の［終了］ボタンをクリックします。
   月間スケジュールの設定を終了します。

● 月間スケジュール画面



設定メニュー

休日設定：休日を設定します。メニューを選択後、休日に設定したい［日付］ボタンをクリックします。もう一度メニューを選択すると、休日の設定が完了します。

開始曜日：カレンダの開始曜日を設定します。「日曜日」と「月曜日」が選択できます。

リストボタン：［設定リスト］画面を表示します。その月に設定されているスケジュールが一覧表示されます。

終了ボタン：月間スケジュールの設定を終了します。

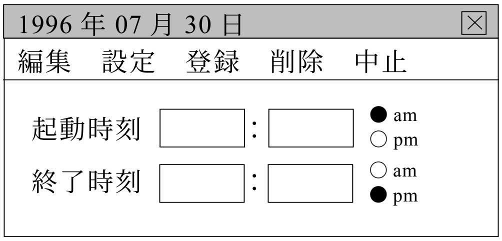
◀ボタン：前月のカレンダを表示します。

▶ボタン：翌月のカレンダを表示します。

日付ボタン：対象日の［日付スケジュール設定］画面を表示します。設定済みのボタンは反転表示されます。

日付の表記方法は異なることがあります。

● 日付スケジュール設定画面



編集メニュー

クリア：選択中の［時刻］フィールドの値をクリアします。

設定メニュー

時計選択：時刻の表示方法を選択します。「12 時間時計」と「24 時間時計」が選択できます。

登録ボタン：設定した内容を登録します。

削除ボタン：設定されているスケジュールを削除します。［月間スケジュール］画面で反転表示されていた［日付］ボタンが通常の表示に戻ります。

中止ボタン：設定を中止します。

起動時刻フィールド：起動時刻を設定します。空白を設定した場合は、起動しないことを示します。

終了時刻フィールド：終了時刻を設定します。空白を設定した場合は、シャットダウンしないことを示します。

注意

現在時刻から間近（数分後）の終了時刻を設定した場合、最大で UPS 監視時間間隔（デフォルト値 15 分）程度終了時刻が延びることがあります。

● 設定リスト画面

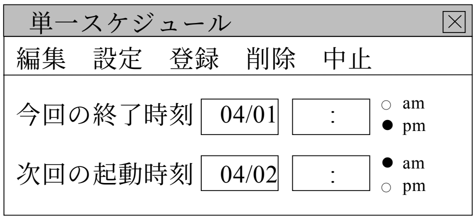


スクロールリスト：設定されているスケジュールが一覧表示されます。

●単一スケジュールの設定

単一スケジュールには、今回の終了と次回の起動を設定します。

1. ［スケジュール設定］画面で、［単一スケジュール］ボタンをクリックします。
   ［単一スケジュール］画面が表示されます。日付指定欄にはデフォルトで今日と明日の日付が表示されます。



2. ［今回の終了時刻］と［次回の起動時刻］を設定します。
3. ［登録］ボタンをクリックします。
   設定内容が登録され、［単一スケジュール］画面が閉じます。

● 単一スケジュール画面

編集メニュー

　クリア：選択されている時刻フィールドをクリアします。

設定メニュー

　時計選択：時刻の表示方法を選択します。「12 時間時計」と「24 時間時計」が選択できます。

登録ボタン：設定内容で登録します。

削除ボタン：登録されている単一スケジュールを削除します。

中止ボタン：設定を中止します。

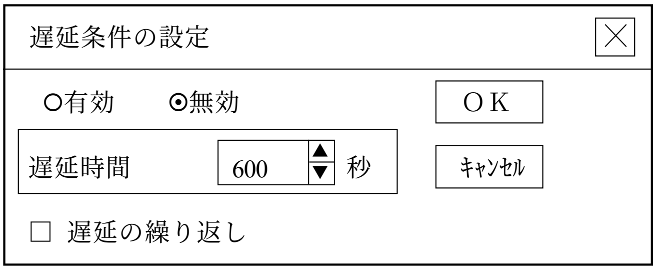
今回の終了時刻：今回の終了時刻を設定します。空白を設定した場合は月間、週間スケジュールを使用することになります。

次回の起動時刻：次回の起動時刻を設定します。空白を設定した場合は月間、週間スケジュールを使用することになります。

●遅延条件の設定

スケジュールの終了時刻に他のユーザがログオンしていたり、共有資源を使用しているユーザがいる場合には、終了時刻を遅らせることができます。

1. ［スケジュール設定］画面で、［遅延条件の設定］ボタンをクリックします。
   ［遅延条件の設定］画面が表示されます。



2. ［有効］をクリックします。
3. 遅延時間を設定します。
4. 繰り返し行いたい場合は、［遅延の繰り返し］をクリックします。
5. ［決定］ボタンをクリックします。
   設定した内容を登録して、遅延条件の設定を終了します。

● 遅延条件の設定画面

有効／無効：有効にすると設定した遅延時間、システム終了を遅延します。無効では終了予定時刻どおりシステムを終了します。

遅延の繰り返し：■ ユーザが引き続きログオンまたは共有資源を使用している場合は、終了予定時刻の遅延を繰り返します。
□ 終了予定時刻の遅延を一回のみ行います。

- **スケジュール例**

注意

xx:xx **の設定は，時間設定を空白に設定する意味です.**

1. 月曜日から金曜日まで毎日AM08:00に起動してPM09:00に停止させる。土曜日と日曜日は起動させない。
   週間スケジュールで設定します。
   日　xx:xx　-　xx:xx
   月　08:00　-　21:00
   火　08:00　-　21:00
   水　08:00　-　21:00
   木　08:00　-　21:00
   金　08:00　-　21:00
   土　xx:xx　-　xx:xx
   *さらに、祝日に起動させたくない。
   月間スケジュールで指定します。
   1/1　xx:xx　-　xx:xx
   1/15　xx:xx　-　xx:xx
   2/11　xx:xx　-　xx:xx　など
   *さらに､休日出勤で2月7日土曜日のAM09:00に起動してPM06:00に停止させたい。
   月間スケジュールで指定します。
   2/7（土）　09:00　-　18:00
   *さらに、休日出勤で2月8日日曜日に出勤して手動で立ち上げてPM03:00 に停止させて週間スケジュールの設定どおりに月曜日起動させたい。
   日曜日に手動で起動させた後、単一スケジュールで設定します。
   停止　2/8　15:00
   起動　2/9　xx:xx

2. 毎日夜中AM02:00からAM03:00の間停止したい。
   （停止が起動より早い時刻の場合は、停止時間に24時間足されます。）
   週間スケジュールで設定します。
   日　03:00　-　02:00
   月　03:00　-　02:00
   火　03:00　-　02:00
   水　03:00　-　02:00
   木　03:00　-　02:00
   金　03:00　-　02:00
   土　03:00　-　02:00

3. 月曜日の AM06:00 に起動して金曜日の PM11:00 に停止したい。
 週間スケジュールを使います。

日	xx:xx	-	xx:xx
月	06:00	-	xx:xx
火	xx:xx	-	xx:xx
水	xx:xx	-	xx:xx
木	xx:xx	-	xx:xx
金	xx:xx	-	23:00
土	xx:xx	-	xx:xx

*さらに、2 月 6 日金曜日は停止させずに 2 月 7 日土曜日 PM09:00 に停止したい。
月間スケジュールを使います。

2/6	xx:xx	-	xx:xx
2/7	xx:xx	-	21:00

*さらに、1 月 15 日木曜日は祝日なので 1 月 14 日水曜日の PM11:00 に停止させて 1 月 16 日金曜日の AM06:00 に起動させ金曜日なので PM11:00 に停止させたい。
月間スケジュールを使います。

1/14	xx:xx	-	23:00
1/15	xx:xx	-	xx:xx
1/16	06:00	-	23:00

4. 2 月 3 日火曜日当日 PM00:10 に停止して PM00:45 に起動したい。
 単一スケジュールを使います。

停止	2/3	12:10
起動	2/3	12:45

5. 長期休暇（12 月 29 日から 1 月 3 日）のスケジュールを設定したい。
 月間スケジュールを使います。

	起動		停止
12/29	xx:xx	-	18:00
12/30	xx:xx	-	xx:xx
12/31	xx:xx	-	xx:xx
1/ 1	xx:xx	-	xx:xx
1/ 2	xx:xx	-	xx:xx
1/ 3	23:00	-	xx:xx

*さらに、12 月 30 日 12:00 に、手動で起動して 12 月 30 日の 20:00 に停止して、1 月 3 日の 23:00 に起動させたい。
単一スケジュールを使います。

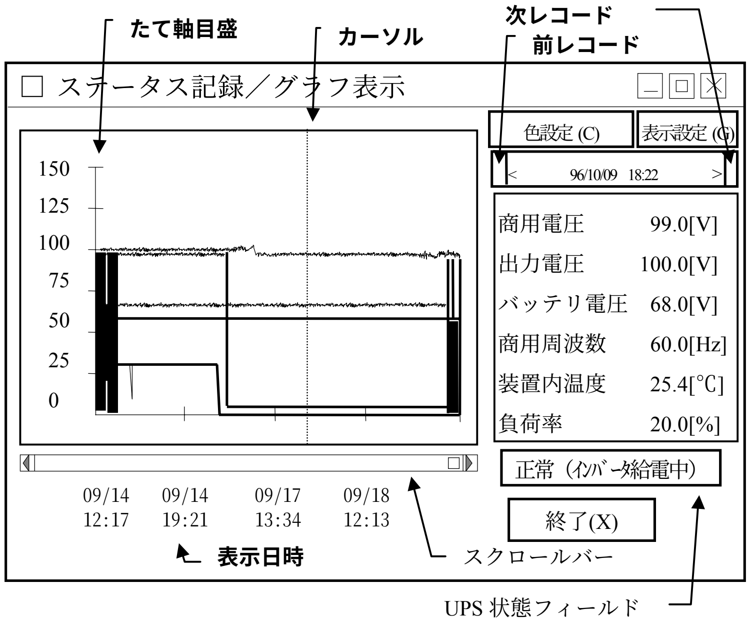
停止	12/30	20:00
起動	12/31	xx:xx

6 ステータス情報

UPSのステータス情報は、一定時間（UPS監視時間間隔）ごとにログファイル（upslog）に書き込まれます。このログファイルの内容をグラフで表示できます。

グラフの表示

ログファイルをグラフ表示するには、「ログ表示」をクリックします。



● UPS **ステータス画面**

色設定ボタン：グラフの［グラフの表示色］画面を起動します。（リアルタイムなステータス表示のグラフ表示色と連動します。）

たて軸目盛：電圧、負荷率、周波数共通の目盛数字を表示します。

表示設定ボタン：グラフの表示方法などを設定します。クリックすると［グラフの表示形式］画面（37ページ）が表示されます。

終了ボタン：［ステータス記録／グラフ表示］画面を閉じます。

［<］ボタン：カーソル位置を一つ前のレコードに移動します。

［>］ボタン：カーソル位置を一つ次のレコードに移動します。

UPS **状態フィールド：**UPSの状態を表示します。

グラフの設定

データやグラフ表示の方法は、［グラフの表示形式］画面で設定します。

［グラフの表示形式］画面は、［ステータス記録／グラフ表示］画面で［表示設定］ボタンをクリックすると表示されます。



- **グラフの表示形式画面**

電圧表示範囲の設定：たて軸の目盛を設定します。

目盛り数：グラフの目盛りの値を設定します。

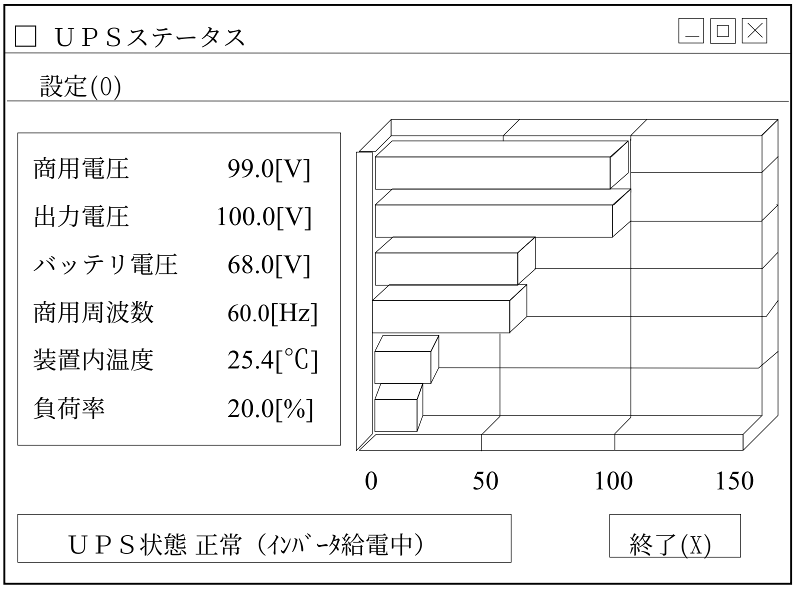
表示件数：グラフ画面に表示するレコード数を設定します。

決定ボタン：設定の変更を登録して画面を終了します。

中止ボタン：設定の変更を登録せず画面を終了します。

ステータスの表示

UPS のステータスをリアルタイムに表示するには「リアルタイム表示」アイコンをダブルクリックします。
［UPS ステータス］画面が開きます。



● UPS **ステータス画面**

設定メニュー

色設定：グラフの［表示色設定］画面を起動します。

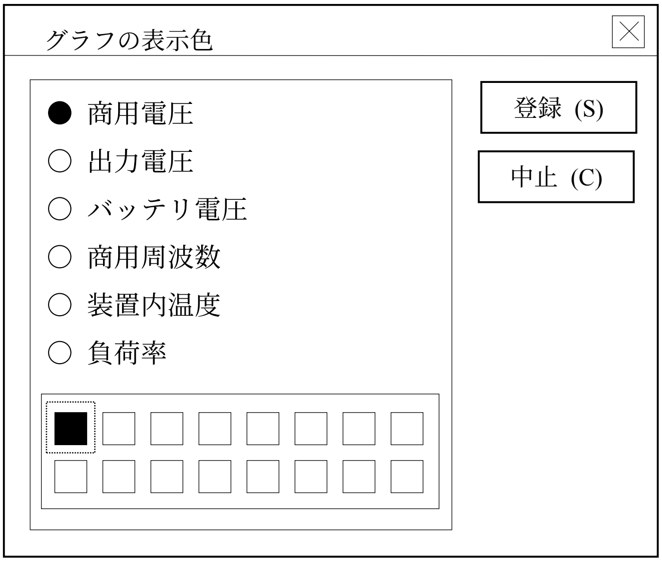
グラフ表示：グラフの［グラフの表示形式］画面を起動します。

終了ボタン：［UPS ステータス］画面を終了します。

ステータスの設定

ステータスの表示方法は、［グラフの表示色］［グラフの表示形式］画面で設定します。

［グラフの表示色］画面は、［UPS ステータス］の「設定」→「色設定」ボタン または［ステータス記録／グラフ表示］画面で「色設定」ボタンを選択すると表示されます。



操作手順

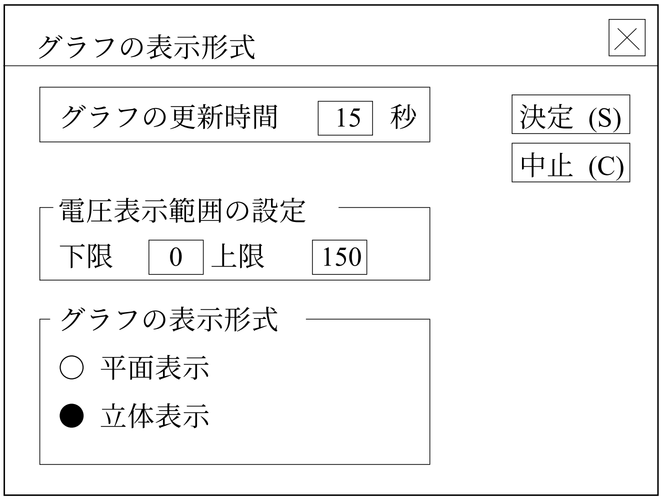
色設定操作

1. 色を変更したい項目を選択して、色のボタンをクリックします。
2. 項目名の色が変更されます。
3. 各項目を設定後、［登録］をクリックします。色変更が［UPS ステータス］画面と［ステータス記録／グラフ表示］画面のグラフ表示に反映されます。

● **グラフの表示色画面**

登録ボタン：色設定の変更を登録して設定画面を終了します。
中止ボタン：色設定の変更を登録せず設定画面を終了します。

［グラフの表示形式］画面は、［UPS ステータス］画面で「グラフ表示」メニューを選択すると表示されます。



● グラフの表示形式画面

データ更新時間：UPS ステータスデータの更新間隔を、15〜60 秒の範囲で設定します。

電圧表示範囲の設定：たて軸の目盛を設定します。

グラフの表示形式：平面表示または立体表示を選択します。

決定ボタン：設定の変更を決定して終了します。

中止ボタン：設定の変更を登録せず終了します。

このページは空白です

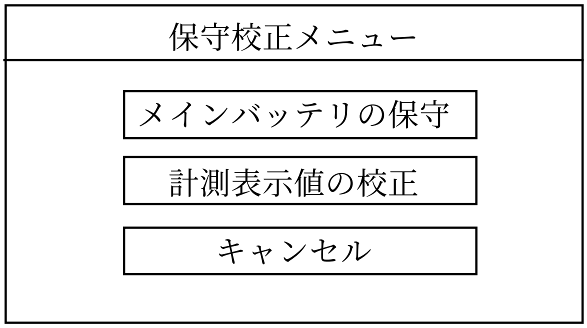
7 保守校正モード

保守校正モードで、メインバッテリの交換予定時期の設定を行います。また、計測表示値と実測値が正確に一致しない場合の校正を行ないます。

操作手順

［スタート］→［プログラム］→［フルバックマネージャ］→［保守校正モード］と順次選択し、［保守校正モード］をクリックして起動させます。

「保守校正メニュー」が表示されます。



● **保守校正メニュー画面**

メインバッテリの保守ボタン：「メインバッテリの保守」画面を表示します。

計測表示値の校正ボタン：「計測表示値の校正」画面を表示します。

キャンセルボタン：「保守校正メニュー」を終了します。

注意

保守校正モードの起動時は、本ソフトの他のサービスは停止しています。保守校正作業が終了したら、直ちに キャンセル をクリックして保守校正モードを閉じてください。
サービスの停止時は、異常（停電，ローバッテリ，.....その他異常）が検出できません。

メインバッテリの保守

メインバッテリの交換予定時期が確認できます。また、メインバッテリの交換予定時期を正しく表示、警告するために、メインバッテリの使用済期間を設定します。

操作手順

1.　「保守校正メニュー」で［メインバッテリの保守］ボタンをクリックします。「メインバッテリの保守」画面が表示されます。

メインバッテリの保守

交換予定時期まで

表示のみ→　あと　[　　]　ヶ月

メインバッテリを使用した期間

数値入力→　[　　]　ヶ月

[確定]　[終了]

●メインバッテリ交換予定時期の確認

表示だけです。変更はできません。

2.　メインバッテリの交換予定時期が、「交換予定時期まであと XX ヶ月」と表示されます。
3.　交換時期を確認後、［終了］ボタンをクリックし、終了します。

MEMO

交換予定時期まで３ヶ月を切った時点より、「メインバッテリの交換予定時期」がきたことを、本ソフトの起動ごとに警告します。

●メインバッテリ使用期間の設定方法

2.　［メインバッテリを使用した期間］の入力フィールドをクリックし、使用期間を０～６０ヶ月まで、１ヶ月単位で入力します。
　　例：新しいバッテリと交換した場合は [0] ヶ月と入力します。
3.　［確定］ボタンをクリックすると、UPS の交換予定時期が更新されます。
4.　設定結果が「交換予定時期まであと XX ヶ月」と表示されるので、［終了］ボタンをクリックし、設定を終了します。

計測表示値の校正

計測表示値と実測値が正確に一致しない場合に、この画面で正しい値に校正します。

この校正作業は必ずしも必要ではありません。現在の「表示値」を正確に校正したい場合に限り、１%級以下の正確な電圧計、電流計等（外部メータ）を用いて実際の値を計測しながら、以下の方法で校正してください。

1. 「保守校正メニュー」で［計測表示値の校正］ボタンをクリックします。「計測表示値の校正」画面が表示されます。

計測表示値の校正

	表示値		実測値	
商用電圧	99.3	V		V
出力電圧	101.4	V		V
バッテリ電圧	66.9	V		V
装置内温度	32.0	V		V
負荷率	30.1	%		%

［確 定］ ［初期値］ ［終 了］

［表示値］フィールドには、UPS が現在、表示や記録に使用している値が表示されます。

2.　校正したい項目の［実測値］フィールドにカーソルを移動し、現在の正確な計測値（外部メータの値）を入力します。
入力できる値の形式は次の通りです。

・ 各電圧項目：XXX. X[V]　（最大 999. 9V）
・ 温度項目　： XX. X[℃]　（最大 99. 9V）
・ 負荷率　　：XXX. X[%]　（最大 999. 9%）

注意

［実測値］フィールドがスペースの状態で［確定］ボタンをクリックした場合は無視されます。

MEMO

●負荷率の計算方法

負荷率は、現在の正確な UPS の出力実効電流を計測し、それを定格出力電流に対する百分率で表したものです。例えば、定格出力電流（実効電流）が１０Ａの UPS を使用し、現在の実測出力電流が７Ａの場合は、
現在の負荷率＝１００％×７Ａ÷１０Ａ＝７０％
となります。
（定格出力電流［A］＝定格出力容量［ＶＡ］÷定格出力電圧［V］）

3.　［確定］ボタンをクリックすると、UPS は入力されたデータを真値として計測値を校正します。
4.　しばらく待って、「表示値」が入力した「実測値」とほぼ同じ値になったことを確認します。
5.　間違った設定をした時は、設定をやり直すか、［初期値］ボタンをクリックして、製品出荷時の設定状態に戻します。
6.　設定結果が OK なら、［終了］ボタンをクリックして、設定を終了します。

注意

［初期値］ボタンをクリックした場合、初期値に戻るのは、カーソルが点滅している項目のみです。

付録

操 作
手 順

動作条件の保守

動作条件設定プログラムは、Windows 95 の持つ「レジストリ・データベース」にその設定を保存します。Windows 95 にはこのレジストリ・データベースを保守・管理するために、「レジストリエディタ」というプログラムが用意されています。レジストリエディタを用いると、本ソフトの各種の設定をファイルに保存したり、逆に保存してあるファイルの内容にしたがって各種の設定を復元することができます。

- **レジストリエディタの起動**
  1. Windows95 のスタートボタンをクリックし、［ファイル名を指定して実行］コマンドを選択します。
  2. ［コマンドライン］ボックスに REGEDIT と入力します。
  3. ［OK］をクリックします。

- **レジストリの選択**

  レジストリエディタにはレジストリツリーが表示され、本ソフトの設定は、その中の「HKEY_LOCAL_MACHINE」にあります。

  1. ［HKEY_LOCAL_MACHINE］をダブルクリックします。
  2. その下の［SOFTWARE］をダブルクリックします。
  3. 同様にして、次のように項目をたどっていきます。

```
🗀 HKEY_LOCAL_MACHINE
 └ 🗀 SOFTWARE
     └ 🗀 Alfatech
         └ 🗀 PowerMonitor
             └ 🗁 CurrentVersion
```

- **設定の保存**

  動作条件設定プログラムで設定した項目を保存します。

  1. CurrentVersion の下にある「upstab」という項目を選択します
  2. 「レジストリ」メニューの「レジストリファイルの書き出し」項目を選択します。
  3. 保存するファイル名を聞いてくるので、適当な名前を入力します。
  4. ［OK］ボタンを押します。

- **設定の復元**

  保存した“ 動作条件設定プログラムで設定した項目 ”を復元します。

  1. CurrentVersion を選択します。
  2. 「レジストリ」メニューの「レジストリファイルの取り込み」項目を選択します。
  3. 読み出すファイル名を聞いてくるので、保存しておいたファイル名を入力します。
  4. ［OK］ボタンを押します。

注意

「upstab」には、通信ポートなどコンピュータごとに異なる設定項目が含まれています。この設定を他のコンピュータに移すときは、十分注意してください。誤った設定をすると本ソフトが起動できなくなります。

スケジュールの保守

スケジュール設定プログラムは、INI ファイルにその設定を保存します。このファイルは通常のテキスト形式なので、その内容のコピーには Windows 95 の持つ「メモ帳」などのエディタを使うことができます。

操作手順

● **メモ帳の起動**

1. ［スタート］をクリックし、［アクセサリ］→［メモ帳］を選択します。
2. ［メモ帳］をクリックし、起動します。

● **INI ファイルの読込み**

1. 「ファイル」メニューの「開く」コマンドを選択します。読み出すファイルを選択するダイアログボックスが表示されます。
2. Windows 95 がインストールされているディレクトリ（例えば C:¥WINDOWS）に移動します。
3. その下の「upsnt.ini」ファイルを選択します。
4. ［OK］ボタンを押します。

● **スケジュールの保存**

INI ファイルの中は、いくつかのセクションに分かれています。これらのうちでスケジュールに関連するものは以下の４つです。

［daily.dat］
［weekly.dat］
［monthly.dat］
［Xsched］

これらのセクションだけを別のファイル名で保存します。

● **スケジュールの復元**

INI ファイルの４つのセクションを保存しておいたファイルのものに入れ替えます。

本ソフトを削除する方法

本ソフトのプログラム等を削除して、インストール前の状態に戻したいときは以下の手順で行います。

1. ［スタート］→［プログラム］→［フルバックマネージャ］→［削除］を順に選択します。
2. フルバックマネージャの削除ウィンドウが表示されるので、［OK］ボタンを押します。
3. 再起動を促すメッセージが表示されるので、［OK］ボタンを押して、必ず 再起動してください。
4. 本ソフト関連ファイルが削除されます。

本ソフトの停止方法

本ソフトの動作中に、通信ケーブルを外すと、「UPS と通信できません」というメッセージが繁雑に現われます。このメッセージがわずわらしい場合は、次の手順で本ソフトを一時的に停止することができます。

1. DOS プロンプトにおいてディレクトリを POWERMGR とする。
2. このディレクトリにおいて［ups95dde_stop <Return>］とする。
   尚、本ソフトの動作を再開する場合は同じディレクトリ上で［ups95dde_start <Return>］とします。

インストールされるファイルの一覧（ファイル名順）

ファイル	ディレクトリ	備考
CLNLOG.EXE	C:¥POWERMGR	
CMDIALOG.VBX		
CSSPIN.VBX		
CSTEXT.VBX		
EXITKRNL.EXE		(1)
GAUGE.VBX		
GRAPH.VBX		
GSW.EXE		
GSWDLL.DLL		
MSCOMSTF.DLL		
MSCUISTF.DLL		
MSDETSTF.DLL		
MSINSSTF.DLL		
MSSHLSTF.DLL		
MSUILSTF.DLL		
PROTOCOL.BIN		
QPRO200.DLL		
QPRO200J.DLL		
REMOVE.EXE		
SETUP.EXE		
SETUP.INI		
STAT*x*.BIN		(2)
THREED.VBX		
TOKEN.BIN		
UPSADJ.EXE		(3)
UPS95DDE.EXE		
UPS95MSG.EXE		
UPSCHED.EXE		
UPSCOLOR.EXE		
UPSDDE.DLL		
UPSETUP.EXE		
UPSHUT.DLL		
UPSHUT.EXE		
UPSHUT.H		
UPSHUT.LIB		
UPSLINE.EXE		
UPSLOG		(4)

UPSNT.INI	C:¥WINDOWS	
UPSRC1.BAT	C:¥POWERMGR	(1)
UPSSTAT.EXE		
VBRJP200.DLL		
VUPSD.VXD	C:¥WINDOWS¥SYSTEM	
XSCHED.EXE	C:¥POWERMGR	

(1) オートシャットダウン時にシステムをシャットダウンさせるファイル。

(2) *x* は 2 桁または 3 桁の数字。

(3) 製品によっては無い場合もある。

(4) サービスにより作成される。

エラーメッセージ

● **コンピュータの起動直後に出力されるメッセージ**

「通信ポートの初期化に失敗しました。」

原因:
動作条件設定プログラムで指定した COM ポートが存在しない。
指定した COM ポートにケーブルが正しく接続されていない。
指定した COM ポートは他のプログラムがすでに使用している。
ケーブルに異常がある。

「UPS の初期化に失敗しました。」

原因:
UPS にケーブルが接続されていない。
UPS 側が通信できる状態ではない。
動作条件設定プログラムで指定した COM ポートとケーブルを実際に接続したポートが違っている。
指定した COM ポートは他のプログラムがすでに使用している。
通信速度やパリティの有無など、UPS 側の通信条件が異なっている。
ケーブルに異常がある。

● **通常運転中のメッセージ**

「UPS と通信できません。」

原因:
UPS とコンピュータをつなぐケーブルがはずれた。
UPS 側が通信できる状態ではなくなった。
電気障害などによって通信に一時的な影響が発生しました。

このページは空白です。

このページは空白です。